

令和4年度訪問型家庭教育支援推進事業 第2回専門講座

1. 日 時 令和4年7月26日（火） 13時30分～16時00分
2. 場 所 那智勝浦町体育文化会館大集会室（オンラインでも開催）
3. 参加者 参加者32名（会場21名・オンライン11名）
4. 内 容
13:35～ 事例発表

◆事例発表 「ほっとほ一む6年間の歩み」

那智勝浦町家庭教育応援チーム「ほっとほ一む」相談員 西田 好孝 氏
スクールソーシャルワーカー 畑下 恭子 氏
訪問支援員 寺地 夏美 氏

【概要】

① 失敗からの気づき

- ・ 家庭訪問における支援の押しつけ
⇒ 「訪問型」「家庭教育支援」という言葉にとらわれすぎないことが大切
- ・ 情報を共有する必要性
⇒ 訪問支援員による定例会での話し合い（つながりを意識した活動への転換）

② 保護者とのつながり、チームとしての支援

- ・ 家庭訪問の積み重ね ⇒ 「ほっとほ一む」の活動の周知
- ・ 臨床心理士や教育相談員との連携（相談ケースによる）⇒ チームとしての支援を意識した取組

③ 活動の広がり

〈ほっとサロンの開催〉

- ・ 保護者同士が話し合う場の提供 ⇒ 保護者同士のつながりと家庭の孤立化の防止

〈「ほっこり」（支援センター）のスタート〉

- ・ 子供の放課後支援
- ・ 不登校ケース会議
- ・ 不登校訪問支援員・「ほっとほ一む」メンバー等の協力

〈定例会の開催〉

- ・ 貴重な情報共有の場
- ・ ケース検討で支援の方向を考える場

⇒ 支援員同士の親睦の場

④ 成果等

- ・ 多くの保護者や子供たちと出会い、つながることができた。
- ・ 保護者、子供、学校にとって安心して相談できる身近な存在になってきている。



◆講演 「今、なぜ家庭教育支援?!～つながることの大切さ～」

湯浅町家庭教育支援チーム 「とらいあんぐる」代表 上田 さとみ 氏

【概要】

①地域や家庭の状況

- ・社会・経済的格差の広がり（格差社会・学力格差）
 - ・家庭の多様化（核家族化・ひとり親家庭・再婚）
 - ・親世代と子ども世代の価値観の接近・同等化
 - ・幅広い人間関係の必要性（人間関係の私的化）
 - ・情報化社会の中のコミュニケーションリスク
 - ・孤立しやすい家庭（自分からSOSが出せない）
- ⇒社会全体で取り組む家庭教育支援が必要



②「とらいあんぐる」の設立

- ・平成20年度 スクールソーシャルワーカーを配置
 - ・平成21年度 支援チームの立ち上げ
- ⇒地域、家庭、学校とのつながりを大切にした支援チームの活動をめざす

③「とらいあんぐる」の活動

- ・全戸家庭訪問
 - ・講座の開催
- ⇒ 家庭の安定が子供の健やかな成長につながる
- ・子育て・家庭教育情報誌 『すまいる』の配布

④訪問支援員の役割

- ・問題の未然防止と早期発見
- ・保護者が困った時に相談しやすい関係性の構築

⑤支援リーダーの役割

- ・問題の未然防止、早期発見・早期対応
- ・問題のアセスメントとプランニング
- ・学校対応、保護者対応（訪問・面接）
- ・関係機関との連携

（いじめ、不登校、児童虐待、非行、発達、病気、クレーム対応、経済面等）

⇒家庭と学校をスムーズにつなげる役割

⑥活動するにあたり気をつけること

- ・傾聴・共感すること ⇒いつでも相談できる安心感を保護者に持ってもらう
 - ・問題に気づき、継続的に関わりながら保護者と関係機関のつながりも築くこと
- ⇒家庭に寄り添いながら意図的に見守り続けていく
- ⇒「気づく 見守る つなげる」



⑦まとめ

- ・「学校がよくなれば地域がよくなる 地域がよくなれば学校がよくなる」
⇒アウトリーチを含め、今後も幅広く家庭教育を支援していく必要がある

14:45～ 協議

◆協議 「事例を通して、問題を『見極める目と対応方法』を考える」

湯浅町家庭教育支援チーム 「とらいあんぐる」代表 上田 さとみ 氏

【概要】

- ・具体的な事例について、会場参加者5グループ、オンライン参加者2グループによる協議と発表



5. アンケート（回収22名）

①参加者内訳

家庭教育支援関係者	… 11名
市町村行政職員	… 9名
スクールソーシャルワーカー	… 1名
民生・児童委員	… 1名

②「事例発表についてあてはまるものを選んでください。」

- ・大いに参考になった 17名
- ・おおむね参考になった 5名

③「講演についてあてはまるものを選んでください。」

- ・大いに参考になった 18名
- ・おおむね参考になった 4名

④「協議についてあてはまるものを選んでください。」

- ・大いに参考になった 17名
- ・おおむね参考になった 5名

⑤専門講座に参加して感じたこと等

- ・ 支援チームの一員としての役割や心構え等、確認することができた。
- ・ 「訪問支援員は保護者の方々に寄りそって話を聞き続ける。雑談等気楽なスタンスで接する」という言葉に気持ちが楽になった。
- ・ 両町とも素晴らしい家庭教育支援システムを構築されていて、それが人の力によって機能していることに感心した。
- ・ 表面に出てきていないことに気づくことが大切であることを忘れないで、活動に生かしていきたい。
- ・ 訪問する際にどのような準備をしていけばよいのか、またどのような心持ちで行けばよいのか、具体的に話してもらいとても想像しやすかった。
- ・ 継続することの大切さを改めて感じた。
- ・ 昨今の問題行動の質の変化、徹底的に寄り添う訪問支援員の意義等について改めて考える機会となった。
- ・ 成功例だけではなく、失敗例をどのように生かしていったかということも参考になった。
- ・ 支援員や支援リーダーの役割、人や関係機関とつながることの重要性を再確認できた。
- ・ 他市町村の働きや気をつけていること、体制など詳細に知ることができてよかった。
- ・ 訪問支援員として大切なことを学べた。早期発見、未然防止が大切だと思った。その中で一番大切なことは、「何か言ってくれるまで待つ」「じっくり話を聞く」「寄り添う」ことであると学んだ。訪問支援員側の誠実さ、相手のことを思う気持ちが大切だと思った。
- ・ オンラインでの参加ができて本当に良かった。小学生から中学生までつながっており、困ったり悩んだりした時に相談できる存在になっていると思った。
- ・ 私たちが活動している指針となりとても参考になった。
- ・ とても勉強になった。いろいろな見方によって状況が変わってくるということもわかった。
- ・ 事例検討にもう少し時間があればよかった。ギャラリートークのようなことをしてみても面白かったかもしれない。
- ・ 時間配分をもう少しできればよかった。全グループの発表があった方がよかった。
- ・ 協議において、アセスメントによって仮説をたくさん立てることができた。スキルアップにもつなげることができた。